

みんなで育てよう、緑豊かな私たちの森！子ども達に贈る自然いっぱいの森

能ヶ谷西緑地だより

2026年9月1日号 245 号 能ヶ谷西緑地・樹の会

【9月の予定】

- ◆9月12日（土）（雨天翌日）
 - ・花広場草刈り
- ◆9月26日（土）（雨天翌日）
 - ・梅の剪定
- * 9:00 現地集合（9:00～11:30）

- ◆9月5日（土） 10:00～12:00
 - ・やまゆ連・手作りカフェ
- 平和台集会所

問合せ：伊藤（735-8623）
どなたでも参加自由です。



※※※※※※

緑地だより

※※※※※※

7月4日（土） 曇 参加者 7名

6月4週目が土日とも雨のため、今日はかわりの作業日となった。百合の丘から花広場通路を草刈り。3週間手が入っていない上に雨続きだったため、草は猛烈な勢いで伸び、そこら中に様々なキノコが生えている。地中は菌糸がいっぱい広がっているのだろうか。2台の刈払い機で刈っていき、木の周りや塀の下は鎌で手刈り。その合間に山ゆりが花の重みで倒れそうなので支柱を立てる。

作業後は参加者募集のチラシを配ったが今のところ反応はなく、樹の会の今後を懸念する声があった。（宇野）

7月11日（土） 晴 参加者 9人

今日の作業は、サクラ広場の草刈りと整備でした。刈払い機2台で作業。その他の人は鎌で。傾斜地は危険が伴うので慎重を期します。シャガが直径10mにも増え広がり、目立ちすぎたのでバリバリ刈りました。

作業前には、必ず周囲の家に、これからエンジン



【緑地に生える】タマゴタケ（卵茸）



ハラタケ目テングタケ科テングタケ属のキノコ的一种です。ナラやシイ、ブナなど広葉樹の根元や、針葉樹の地上に発生します。

鮮やかな色彩から、日本では毒キノコと思われることもありますが、実際には無毒で美味しいキノコです。

ヨーロッパでは「皇帝のキノコ」と呼ばれ、イタリアやフランスで高級食材として扱われる、おいしいキノコです。（長谷部）

音がする旨の挨拶をしてから始めるようにしています。ボランティアだからといっても、大切なことだと感じています。終了後お茶しながら、会員も高齢化しているなどの話になって、後継の会員が一人でも増えると良いねと話し合いました。

（設楽）

7月25日（土） 晴 参加者10名

中央広場の草刈りの時、ホコリタケに似た、不思議なキノコを発見しました。

上をちょっと押すと、胞子が飛び出します。



ノウタケ？

その後、納会。前半期の無事を祝って、乾杯！ 今年は消防カ

レー（？）にIさん手作りのナン

が供されました。皆さんの手作り料理もにぎやかにテーブルを飾りました。

（小川）



作業報告 (続き)

8月22日(土) 曇り 参加者6人

今日の作業は公園側入り口近くの場所と緑地内通路の周りの草刈りでした。

刈払い機1台と手刈りでの草刈りでした。しばらくぶりの作業でかなり草はのびていましたが少人数で温度も高かったので、休憩と給水に配慮して早めに作業を終えました。

趣味でミツバチの巣箱を持っている方から、緑地内に4月頃巣箱を置かせてもらえないかとの話がきて、今日その方が緑地に見えられたので、Sさんが緑地内を案内しました。まだ先の話なので今後どんなものなのかの説明に来ることになりました。今後よく検討して返事をするということになります。

作業終了後、Iさん手作りのスコーンを食べながらお茶にして散会しました。(設楽)

ノカンゾウ 一重
咲きです



ヤブカンゾウ
こちらは八重です



【緑地の樹】

クサギ

まだ木になりかけの、実生のクサギは中央広場の草地のあちこちにあります。クサギは伐採して明るくなるとすぐに生えてきて成長の早いパイオニア植物なのです。ただ、すぐに刈られてしまうため小さくて、木だとは気づかれません。少し大きくなった木が、児童公園からの入り口に生えています。

葉っぱに匂いがあるので、クサギと名付けられ、いやがられますが、私はこの匂いを嫌いではありません。エビオスのような、ちょっと変わった匂いです。

花は、きれいなだけでなく、香りもとても良いし、赤とルビー色の美しい実をつけます。実は布を青く染めてくれます。もっと大切にされ、かわいがられてもいいのに・・・と思います。

(小川)

プロフィール：シソ科クサギ属の落葉小高木



◆ 緑地内は自然緑地として保全をしています。

◆ ご意見は、nishiryokuchi@gmail.com まで

「緑地だより」編集：小川

「能ヶ谷西緑地・樹の会」のHP(毎月末に更新)

<http://home.a03.itscom.net/ryokuchi/>

配信希望の方は、nishiryokuchi@gmail.com まで

【やまゆ連・手作りカフェ】

ピロシキ作り

7月4日（土） 10：00～12：00

会員宅

今年の梅雨らしい梅雨の束の間晴れた1日、Sさん宅でピロシキとあんドーナツを作りました。いつもの手作りカフェでは手仕事の後、持ち寄ったお手製のお菓子等で茶話会的な時間を過します。今回の様な食べ物作りは初めてで、中、高校時代の楽しかった調理実習を思い出しました。

ピロシキの語源はロシア語の「小さなパイ」を意味するとか。日本のお握り感覚で、ロシア、東欧では中味の具材も魚やフルーツなど多彩なようです。

揚げたてのピロシキとあんドーナツに舌鼓を打ちながら話も弾みました。

毎回の事です。下準備や段取りをして下さる方に感謝、感謝です。
(藤井)

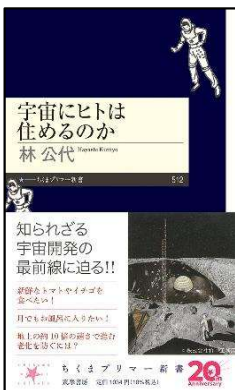


おいしいごちそうが並びました

【緑地を楽しむ本】

『宇宙にヒトは住めるのか』 ちくまプリマー新書

林公代・著 筑摩書房



この春、アルテミス計画の有人月周回飛行が成功し、アポロ計画の頃から少し遠くなっていた月への距離がまた近づいたような気がしました。

この本では、国際宇宙ステーションなどで「宇宙に住む」というより、さらに進んで「宇宙で暮らす」・・・

「我慢せずに」「快適に」生活するということを目指して研究している最前線取材しています。

月で暮らすとして、「月産月消」のために選ばれた8種の作物があります。「イチゴ、レタス、トマト、イネ、ジャガイモ、サツマイモ、キュウリ、ダイズ」です。それぞれに理由はあるのですが、「イチゴ」が選ばれた

理由には「みんなで収穫して食べれば、自然とにこにこして仲良くなるでしょう。」という栄養面だけではない、研究者の意見も反映されているとのこと。

照明についても地球上では当たり前に見える・・・流れる雲によって時おり遮られる太陽の光、樹木のすき間から差し込む木洩れ陽などなど、をいかに再現、実現できるかを研究しているようです。

最前線の研究に驚きながら、長い年月、地球上で暮らしてきた人類と自然との関係について再考させられました。

(遠藤)